

| | |
|--------|-----------------|
| 大学等名 | 名古屋学芸大学 |
| プログラム名 | データ数理・AI教育プログラム |

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- ① 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違しない
- ② 対象となる学部・学科名称 管理栄養学部、メディア造形学部、ヒューマンケア学部、看護学部
- ③ プログラム履修必須の有無 令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定
- ④ 修了要件

情報社会の基礎(2単位)、データ数理演習(2単位)、2科目(計4単位)を取得すること

⑤ プログラム構成科目

| | | |
|-------------|---|----|
| 必要最低科目数・単位数 | 2 | 科目 |
| | 4 | 単位 |

| 授業科目 | 単位数 | モデルカリキュラム対応状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 1-4 | 1-5 | 1-6 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | 4-3 | 4-4 | 4-5 | 4-6 | 4-7 | 4-8 | 4-9 | その他 | |
| (1) 必須科目(プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目) | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| データ数理演習 | 2 | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| ※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 選択必須科目(プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3) 選択科目(プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

⑥ プログラムを構成する授業の内容

| 授業に含まれている内容・要素 | 授業に含まれているスキルセットのキーワード |
|---|---|
| (1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている | 1-1 ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「情報社会の基礎(12回)」 ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報社会の基礎(12回)」 ・第4次産業革命、Society 5.0「情報社会の基礎(12回)」 1-6 ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、生成AIなど)「情報社会の基礎(14回)」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーションなど)「情報社会の基礎(6回)」 |
| (2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの | 1-2 ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報社会の基礎(13回)」 ・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報社会の基礎(13回)」 ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「情報社会の基礎(13回)」 ・データ作成「情報社会の基礎(13回)」 ・データのオープン化「情報社会の基礎(13回)」 1-3 ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報社会の基礎(12回)」 ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報社会の基礎(5回、12回)」 |
| (3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの | 1-4 ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「情報社会の基礎(13回)」 ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、など「情報社会の基礎(13回)」 ・「データ数理演習(2回)」 ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「情報社会の基礎(13回)」 1-5 ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報社会の基礎(14回)」 ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報社会の基礎(14回)」 |
| (4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする | 3-1 ・倫理的・法的・社会的課題「情報社会の基礎(14回)」 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、オプトアウト「情報社会の基礎(14回)」 ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報社会の基礎(13回)」 ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報社会の基礎(14回)」 ・AIサービスの責任論「情報社会の基礎(14回)」 ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報社会の基礎(14回)」 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「情報社会の基礎(14回)」 3-2 ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報社会の基礎(11回)」 ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「情報社会の基礎(11回)」 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報社会の基礎(11回)」 ・サイバーセキュリティ「情報社会の基礎(11回)」 |
| (5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの | 2-1 ・データの種類(量的変数、質的変数)「データ数理演習(2回)」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データ数理演習(2回)」 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「データ数理演習(2回)」 ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「データ数理演習(3回)」 ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データ数理演習(10回)」 ・観測データに含まれる誤差の扱い「データ数理演習(2回)」 ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出)「データ数理演習(6回)」 ・クロス集計表「データ数理演習(1回)」 ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データ数理演習(4回)」 2-2 ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「データ数理演習(4回)」 ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「データ数理演習(4回)」 ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データ数理演習(3回)」 2-3 ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「データ数理演習(1回)」 ・データの集計(和、平均)「データ数理演習(1回)」 ・データの並び替え、ランキング「データ数理演習(1回)」 |

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスやAIの基本的な考え方が理解できる ・各種アンケートデータに統計的な意味づけを与えることができる ・数理的な判断を取り入れた意思決定の重要性が理解でき、実生活に応用できる |
|--|

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

| 学部・学科名称 | 学生数 | | 入学定員 | 収容定員 | 令和7年度 | | 令和6年度 | | 令和5年度 | | 令和4年度 | | 令和3年度 | | 令和2年度 | | 履修者数合計 | 履修率 |
|-----------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|--------|---------|
| | うち女性 | | | | 履修者数 | 修了者数 | 履修者数 | 修了者数 | 履修者数 | 修了者数 | 履修者数 | 修了者数 | 履修者数 | 修了者数 | 履修者数 | 修了者数 | | |
| 管理栄養学部 | 689 | 639 | 160 | 640 | 133 | 3 | | | | | | | | | | | 133 | 21% |
| メディア造形学部 | 1,168 | 878 | 270 | 1,080 | 229 | 1 | | | | | | | | | | | 229 | 21% |
| ヒューマンケア学部 | 874 | 842 | 220 | 880 | 42 | 0 | | | | | | | | | | | 42 | 5% |
| 看護学部 | 429 | 403 | 100 | 400 | 11 | 0 | | | | | | | | | | | 11 | 3% |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | #DIV/0! |
| 合計 | 3,160 | 2,762 | 750 | 3,000 | 415 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 415 | 14% |

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

| | | |
|-------|-----|---|
| (常勤) | 185 | 人 |
| (非常勤) | 259 | 人 |

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

| | |
|---|---|
| 3 | 人 |
|---|---|

③ プログラムの運営責任者

| | |
|--------|---------|
| (責任者名) | 堀尾 正典 |
| (役職名) | 教養教育機構長 |

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

| | |
|------|--------|
| (名称) | 教養教育機構 |
|------|--------|

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

| | |
|------|--------|
| (名称) | 教養教育機構 |
|------|--------|

⑥ 体制の目的

名古屋学芸大学の建学の精神、基本理念、使命・目的及び教育目標に則った教養教育の実施及び充実を目的として、教養教育機構は設置されている。本認定プログラムは教養教育充実の一環のため、本機構において内容の立案、検討が行われた。本機構は、全教養科目の教育計画や編成、授業運営及び自己点検・評価を担っているため、今後も引き続きこのプログラムの自己点検評価を実施していく。

⑦ 具体的な構成員

教養教育機構長、情報系科目担当主任 堀尾 正典
 副機構長 大野 欽司
 管理栄養学部 教授 山田 千佳子
 メディア映像学部 映像メディア学科 准教授 齋藤 正和
 メディア映像学部 デザイン学科 教授 金 昌郁
 メディア映像学部 デザイン学科 准教授 山本 あつし
 メディア映像学部 ファッション造形学科 講師 錦見 淳子
 メディア映像学部 ファッション造形学科(教養教育) 教授 内田 君子
 ヒューマンケア学部(教養教育) 教授 鈴木 薫
 ヒューマンケア学部 教授 赤嶺 亜紀
 ヒューマンケア学部(教養教育) 教授 山本 恭子
 看護学部 教授 林 智子
 看護学部 教授 永井 邦芳
 事務局 局長 機構長補佐 松浦 清彦
 教務部教務課 次長 機構長補佐 三浦 正光

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

| | |
|----------|-----|
| 令和7年度履修率 | 14% |
| 令和8年度予定 | 16% |
| 令和9年度予定 | 18% |
| 令和10年度予定 | 19% |
| 令和11年度予定 | 20% |

具体的な計画

本認定プログラム科目(「データ数理演習」)は、令和6年度入学生より管理栄養学部、メディア造形学部、ヒューマンケア学部で履修ができるよう、令和7年度入学生からは全学部で履修できるよう教育課程に選択科目として新設した。令和7年度よりプログラムを開始したため、履修者数にばらつきがあったが、年次を経るにつれて履修者数や履修率ともに増えていくことが予想できる。
 学生に本認定プログラムの趣旨や目的を周知することで、履修者数の向上を目指す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

取得について特に手続きなどは必要なく、教養科目として開講しており全学生が受講可能になっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学の履修要項として学生へ配付している「履修の手引」に本認定プログラムの項目を設け学生へ周知するとともに、学科ガイダンス等で教養教育機構より学生へ本認定プログラムの趣旨や目的を伝え理解を深める。
 また、履修者が多い「情報リテラシー」など他科目のオリエンテーション等で授業担当者より本認定プログラムについて説明し、履修を促していく。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「情報社会の基礎」については遠隔オンデマンド授業を展開しており、履修生が受講する場所や時間を自由に選択できる。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

LMSやメールにて履修者からの質問を随時受付し、メール及び次回の授業開始時に回答する。
また、本認定プログラム科目を担当する授業担当者の「オフィスアワー」を学生に知らせており、学生は対面での相談も可能である。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

| |
|--------|
| 教養教育機構 |
|--------|

(責任者名)

| |
|-------|
| 堀尾 正典 |
|-------|

 (役職名)

| |
|---------|
| 教養教育機構長 |
|---------|

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|----------------------------------|---|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | 本認定プログラムの履修者、受講生のアンケート結果を把握し、教養教育機構で検討し、本認定プログラムの評価・改善に活用する。 |
| 学修成果 | 本認定プログラム科目を受講する全学生の受講結果アンケートを集計し、全体の学習についての成功度合いを調査している。この調査は毎年実施しており、過去からの経年データを担当が見て、次年度の改善にもつなげている。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度 | 各期の終講時に学生受講結果アンケートを実施し、履修についての理解度を調査している。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度 | 推奨度のような値は学生受講結果アンケート項目としては無いが、替わりとして履修満足度を示す「肯定評価」の値を調査しており、学生の学習成功実感を常に把握している。この値と推奨度は正の相関にあると考えられるため、この値を使い評価している(単純な後輩への推奨度では、単に「楽に単位が取れる」といったネガティブな要素でも高くなってしまう可能性があるため)。 |
| 全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況 | 本認定プログラムについて履修要項(「履修の手引」)に追記し、学生の履修を促す。毎年の受講生を教養教育機構で把握し、必要な場合、委員から履修登録などで周知を徹底する。 |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|--|
| 学外からの視点 | |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | 本学のキャリアサポートセンターでは、毎年卒業生が就職した企業にアンケートを行っている。それにより卒業生に関する評価を把握する。 |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | 本学では、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを外部評価委員に意見を求める機会が毎年設けられている。その場においてプログラム内容や手法についての意見を聴取する予定である。 |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | 最大限、平易に、かつ学生が普段馴染み深い事例を基にし、数式的な説明をできるだけ省いて話を進めるよう心掛けている。講義の主目的として、数学的な理解というより、見かけの数字に簡単に納得するのではなく、意味や理由を掘り下げて考えられるようなコンピテンシー育成を目指している。 |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> | <p>学生受講結果アンケートや最新の動向などを定期的に精査し、内容の修正や加筆を適宜を行う。</p> |

| | | | |
|---------------------|---|-----------|----------------------------|
| 授業科目名 | 情報社会の基礎 | | |
| 授業担当者名 | 堀尾 正典 | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講期(年次学期) | 1~4年次前・後期 (看護学部のみ1年次後期) |
| 教員担当形態 | 単独 | ナンバリングコード | 201-1ICT9-05 |
| 備考 | オンデマンド遠隔授業 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>現代は情報社会とも言われている。新しい技術が日々生まれ、情報を扱う術も刻々と変化している。このような時代において、個人や企業、あるいは社会としてどのようにこれらと向き合っていけばよいのだろうか？</p> <p>そこで、この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人や企業、社会における様々な活動と情報についての現状 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの技術的仕組み ・これからの情報技術 <p>というように、今現在の情報活動の状況や課題、それを支える技術的な理解、これからの情報の動向などについて学び、日々進化するIT社会の変化に対応できる知識を身につける。それらから、これからの賢く生き抜くため情報社会に対して自分なりのどう向き合っていけば良いのか、新しい知見や考え方(思考判断)を持てるようにする。</p> | | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○ | | |
| 授業の概要 | <p>講義の1回から6回の前半は、個人や企業など社会における諸活動と情報の関わりを考えてみる。7回から11回は、新しい情報技術への対応力を強化するためコンピュータやネットワークの技術的な仕組みを中心に学ぶ。</p> <p>12回から15回はこれからの情報社会について考えてみる。</p> <p>なお、本科目は情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」の資格取得を考慮しつつ進めていくため、資格取得に興味のある学生は受講すると良いだろう。</p> <p>※このクラスは遠隔オンデマンド形式による開催となるため、次のような運用方法となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面クラスに連動しているため、対面クラスが実施された翌日に、音声および資料、授業課題がmoodleにより提供される。 ・受講者は各自moodleを開き、資料等で独習した後、その週に出題された課題に取り組む。 ・作成した課題は翌一週間以内に所定のフォームにアップロードする。 ・質問その他はgoogleフォームおよびメールで行う。 <p>オンデマンドは、時間を自由に使える代わり、学ぶ意欲が強く求められる形式とも言える。受講者はその点には留意すべきである。</p> | | |
| 学生に対する評価の方法 | 毎回の確認課題(70%程度)と最終レポート(30%程度)により評価 | | |
| 授業計画(回数ごとの内容、授業技法等) | <p>第01回 オリエンテーション/社会を取り巻く情報(受講上の諸注意や講義概要、成績の評価方法などについて説明) 導入(身の回りの情報)。</p> <p>第02回 個人と情報(インターネットの光と影、SNSと問題点)</p> <p>第03回 企業活動と情報(企業とは、組織について)</p> <p>第04回 経営管理と情報(資金、労働力、商品の管理)</p> <p>第05回 市場と情報(マーケティング)</p> <p>第06回 情報社会の法令(個人・企業と情報の法律)</p> <p>第07回 情報と二進数(情報技術を支える基礎理論)</p> <p>第08回 PCのハードウェアについて(CPUとメモリ、)</p> <p>第09回 PCのソフトウェアについて(プログラムとアルゴリズム、OS、ソフトウェア、周辺機器)</p> <p>第10回 コンピュータネットワークについて(ネットワークの仕組み、WiFi、TCP/IP)</p> <p>第11回 ネットワークとセキュリティについて(マルウェアと対策、各種暗号方式)</p> <p>第12回 新しい情報技術(自動運転、VR、ARなど新しい情報技術、仮想通貨、NFT、GAFA)</p> <p>第13回 データサイエンスについて(統計の推定、検定、回帰分析や主成分分析など主な解析手法の概要)</p> <p>第14回 AIについて(エキスパートシステム、機械学習、生成AI、強いAIと心)と学習への振り返り(学生受講結果アンケートの実施)、レポート課題</p> <p>第15回 振り返りとレポートの作成</p> | | |
| 使用教科書 | なし。授業内でテキストの代わりとなる資料など公開する予定。 | | |
| 自己学習(予習・復習等の内容・時間) | レポート作成では図書館や自宅などでの積極的な情報収集や考察が、数時間程度望まれる。 | | |

授業概要(シラバス)

| | | | |
|---------------------|---|-----------|--------------|
| 授業科目名 | 情報社会の基礎 | | |
| 授業担当者名 | 堀尾 正典 | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講期(年次学期) | 1~4年次前・後期 |
| 教員担当形態 | 単独 | ナンバリングコード | 201-1ICT9-05 |
| 備考 | 管理栄養学部、メディア造形学部、ヒューマンケア学部対象 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>現代は情報社会とも言われている。新しい技術が日々生まれ、情報を扱う術も刻々と変化している。このような時代において、個人や企業、あるいは社会としてどのようにこれらと向き合っていけばよいのだろうか？</p> <p>そこで、この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人や企業、社会における様々な活動と情報についての現状 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの技術的仕組み ・これからの情報技術 <p>というように、今現在の情報活動の状況や課題、それを支える技術的な理解、これからの情報の動向などについて学び、日々進化するIT社会の変化に対応できる知識を身につける。それらから、これからの賢く生き抜くため情報社会に対して自分なりのどう向き合っていけば良いのか、新しい知見や考え方(思考判断)を持てるようにする。</p> | | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○ | | |
| 授業の概要 | <p>講義の1回から6回の前半は、個人や企業など社会における諸活動と情報の関わりを考えてみる。7回から11回は、新しい情報技術への対応力を強化するためコンピュータやネットワークの技術的な仕組みを中心に学ぶ。</p> <p>12回から15回はこれからの情報社会について考えてみる。</p> <p>なお、本科目は情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」の資格取得を考慮しつつ進めていくため、資格取得に興味のある学生は受講すると良いだろう。</p> | | |
| 学生に対する評価の方法 | 毎回の確認課題(70%程度)と最終レポート(30%程度)により評価 | | |
| 授業計画(回数ごとの内容、授業技法等) | <p>第01回 オリエンテーション/社会を取り巻く情報(受講上の諸注意や講義概要、成績の評価方法などについて説明) 導入(身の回りの情報)。</p> <p>第02回 個人と情報(インターネットの光と影、SNSと問題点)</p> <p>第03回 企業活動と情報(企業とは、組織について)</p> <p>第04回 経営管理と情報(資金、労働力、商品の管理)</p> <p>第05回 市場と情報(マーケティング)</p> <p>第06回 情報社会の法令(個人・企業と情報の法律)</p> <p>第07回 情報と二進数(情報技術を支える基礎理論)</p> <p>第08回 PCのハードウェアについて(CPUとメモリ、)</p> <p>第09回 PCのソフトウェアについて(プログラムとアルゴリズム、OS、ソフトウェア、周辺機器)</p> <p>第10回 コンピュータネットワークについて(ネットワークの仕組み、WiFi、TCP/IP)</p> <p>第11回 ネットワークとセキュリティについて(マルウェアと対策、各種暗号方式)</p> <p>第12回 新しい情報技術(自動運転、VR、ARなど新しい情報技術、仮想通貨、NFT、GAFA)</p> <p>第13回 データサイエンスについて(統計の推定、検定、回帰分析や主成分分析など主な解析手法の概要)</p> <p>第14回 AIについて(エキスパートシステム、機械学習、生成AI、強いAIと心)と学習への振り返り(学生受講結果アンケートの実施)、レポート課題</p> <p>第15回 課題とレポートの作成</p> | | |
| 使用教科書 | なし。授業内でテキストの代わりとなる資料など公開する予定。 | | |
| 自己学習(予習・復習等の内容・時間) | レポート作成では図書館や自宅などでの積極的な情報収集や考察が、数時間程度望まれる。 | | |

| | | | |
|---------------------|--|-----------|----------------------------|
| 授業科目名 | データ数理演習 | | |
| 授業担当者名 | 内田 君子 | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講期(年次学期) | 1~4年次前・後期 (看護学部のみ1年次後期) |
| 教員担当形態 | 単独 | ナンバリングコード | 201-2IND9-01 |
| 備考 | データ数理演習(1~2年次)、教養総合演習(3~4年次) | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>現在では、コンピュータだけでなく、家電、自動車、洋服や食品にいたる身の回りのありとあらゆるものがインターネットに接続され、多くのデータが一か所に集約できるようになってきた。いわゆるビッグデータである。加えてハードウェアの進歩も伴い、ビッグデータに対して、AI(人工知能)や数理解析など様々な分析手法も確立されてきている。データサイエンスはこのような分析を研究する分野である。そしてデータサイエンスの様々な手法を駆使して、ビッグデータから全体の特徴や傾向を分析する技術者がデータサイエンティストと呼ばれる人々で、今、社会から必要とされている重要な人材の一つである。</p> <p>この授業の目的は、数理・データサイエンスへの関心を高め、数理・データサイエンス・AIの基本的な考え方を理解し、データ活用、分析結果判断を行うための基礎的な能力を修得することである。この授業により、アンケートデータや様々な問題に対して、統計的な意味づけ、数理的な判断や意思決定ができるようになる。</p> <p>なお、本科目は受講に際し次のような前提条件を設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養科目の「表計算演習」を履修済み、もしくはEXCELに対する同等以上のスキルを有する者 <p>EXCELの操作に自信がない学生は、事前に上記科目を履修しておくこと。</p> | | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「知識・技能」○、「思考力・判断力・想像力」◎ | | |
| 授業の概要 | <p>身近な生活や専門分野での学び、ビジネスシーンなど、さまざまな状況を考慮した実践的な演習テーマや課題を通して、数理データサイエンスに関する基本的な知識とスキルを修得する。また、データに対する的確な判断力を修得する。具体的には、以下の3領域に焦点を当てて授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 数理データサイエンスの基礎(一般教養としての知識) (2) 統計学の基礎(基本統計量や仮説検定など) (3) 数理解析の基礎(グラフ・チャート表現や回帰分析など) | | |
| 学生に対する評価の方法 | <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業への参画態度(20%) (2) 授業内で提出する課題(40%) (3) 調査・分析結果の報告(40%) <p>以上3点から総合的に評価する。</p> | | |
| 授業計画(回数ごとの内容、授業技法等) | <p>第01回 オリエンテーション 講義の概要や受講上の注意事項、データサイエンスやデータ分析技術の概要について理解する。</p> <p>第02回 さまざまな代表値(基本統計量) 平均や分散などデータの特徴を数値で表す基本統計量について学び、これらを用いてデータ全体の傾向を把握する。</p> <p>第03回 集団のグラフ表現 データを可視化するためのグラフ作成手法について学び、グラフを用いてデータ分布の特徴を把握する。</p> <p>第04回 グラフと情報リテラシー データを効果的に示すグラフの取り扱い方やデータを扱う際に必要なリテラシーについて学び、データを正確に可視化する。</p> <p>第05回 中心極限定理と正規分布 つりがね型のデータ分布の形状である正規分布と、データを十分収集すればどのような分布も正規分布に近づくことを示す中心極限定理について学び、統計分析の基盤となる考え方を理解する。</p> <p>第06回 統計的な推定 調査や研究の対象とするデータ全体(母集団)と母集団から抽出した一部のデータ(標本、サンプル)の関係について学び、収集した標本データをもとに母集団の平均や比率などを推定して母集団の特徴を把握する。</p> <p>第07回 事例による統計的推定 具体的な事例を用いて統計的な推定を実践する。</p> <p>第08回 統計的な検定 標本を使って母集団に関する仮説の正しさを検証する統計的検定について学び、平均の差や独立性を検定することで分析結果の信頼性を評価する。</p> <p>第09回 事例による統計的検定 具体的な事例を用いて統計的な検定を実践する。</p> <p>第10回 相関と回帰分析 データ同士の関係性を示す相関係数とその関係性を活用して予測を行う回帰分析について学び、これらを用いてデータ間の関係を読み解き、未知のデータを予測してその精度を評価する。</p> <p>第11回 アンケート調査の基礎 研究やビジネスの場で重要なスキルとなるアンケート調査の計画方法や調査票のデザイン技術について学ぶ。</p> <p>第12回 数理と課題解決1 調査目的に応じたアンケート調査票をデザインし、作成した調査票を使用してデータ収集を実践する。</p> <p>第13回 数理と課題解決2 収集したアンケートデータを前処理し、適切な統計手法を適用して分析する。</p> <p>第14回 数理と課題解決3 アンケートデータの分析結果をもとに課題解決案を導き出し、成果をプレゼンテーション形式でまとめる。</p> <p>第15回 数理と課題解決4および授業全体の振り返り、学生受講結果アンケートの実施各自のプレゼンテーションを相互に評価し、調査や分析内容を深化させる。</p> | | |
| 使用教科書 | なし(必要に応じて教材資料を配布する) | | |
| 自己学習(予習・復習等の内容・時間) | <p>指定した講義資料を事前に読んでおく。(週90分)</p> <p>授業で出された課題を使って授業内容を復習する。(週90分)</p> | | |

| | | | |
|---------------------|--|-----------|--------------|
| 授業科目名 | データ数理演習 | | |
| 授業担当者名 | 大野 欽司 | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講期(年次学期) | 1~4年次前・後期 |
| 教員担当形態 | 単独 | ナンバリングコード | 201-21ND9-01 |
| 備考 | | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>現在では、コンピュータだけでなく、家電、自動車、洋服や食品にいたる身の回りのありとあらゆるものがインターネットに接続され、多くのデータがどこに集約できるようになってきた。いわゆるビッグデータである。加えてハードウェアの進歩も伴い、ビッグデータに対して、AI(人工知能)や数理解析など様々な分析手法も確立されてきている。データサイエンスはこのような分析を研究する分野である。そしてデータサイエンスの様々な手法を駆使して、ビッグデータから全体の特徴や傾向を分析する技術者がデータサイエンティストと呼ばれる人々で、今、社会から必要とされている重要な人材の一つである。</p> <p>この授業は、数理・データサイエンスについての関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIの基本的な考え方を適切に理解し、データ活用、分析結果判断を行う基礎能力を育成することを目的としている。この授業により、アンケートデータや様々な問題に対して、統計的な意味づけ、数理的な判断や意思決定ができるようになる。</p> <p>なお、本科目は受講に際し次のような前提条件を設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教養科目の「表計算演習」を履修済み、もしくはEXCELに対する同等以上のスキルを有する者 <p>EXCELの操作に自信がない学生は、事前に上記科目を履修しておくこと。</p> | | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「思考・判断・想像力」◎ 「意欲態度」○ | | |
| 授業の概要 | <p>身の回りの生活、専門での学び、ビジネスシーンなど様々な状況を配慮した実践的演習テーマ・課題を通じて、数理データサイエンスの基本的な知識や技能を修得する。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数理データサイエンスの基本(一般教養としての知識) ・ 統計学の基本(平均の推定、仮設検定)と定期テスト、アンケートなどの分析について ・ 数理解析の基本(回帰分析、シミュレーション、主成分分析、数理計画など)と商品売上予測や就職への意思決定の学修を行う。 | | |
| 学生に対する評価の方法 | 毎回の学習実績課題70%、最終課題30%で採点 | | |
| 授業計画(回数ごとの内容、授業技法等) | <p>第01回 オリエンテーション(諸注意、講義内容、進め方の話し合い、成績評価方法など)</p> <p>数理データ解析の導入について学び、以下について学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の現状(Society5.0)とは ・ データサイエンスとは ・ 様々なデータ分析技術(統計、多変量解析、機械学習、AI)の概要 <p>第02回 さまざまな代表値(基本統計量)について</p> <p>ここでは母集団を記述する様々な指標について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母集団を表す様々な指標(平均、中央、最頻、分散、四分位数、標準偏差、偏差値) <p>第03回 集団のグラフ表現</p> <p>度数分布などさまざまなグラフ表現について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母集団のグラフ表現(ヒストグラム、尖度、歪度、散布図、箱ひげ) <p>第04回 グラフと情報リテラシー</p> <p>大量のデータを効果的に示すグラフの取り扱い方法、および、それらを通じてより正しく情報を見抜くためのリテラシーについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒストグラムの復習、ABC分析とパレート ・ グラフでの情報伝達で気を付けること(見た目の注意、情報リテラシー、メディアリテラシー) ・ 確率分布とグラフシミュレーション <p>第05回 中心極限定理と正規分布</p> <p>推測統計学の基本となる中心極限定理と正規分布について学習する。「</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心極限定理とは ・ テストの得点から順位や目標得点などを推定する事例を使い正規分布表の使い方を学修する ・ 標準正規分布とは <p>第06回 統計的な推定とは</p> <p>区間推定の考え方を理解し、表計算ソフトを用いて使い方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区間推定(信頼区間、信頼水準、Z推定、t推定) ・ 母平均の推定 <p>第07回 事例による統計的推定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母比率、母分散、標本数決定など、幾つかの統計的な推定を、事例を通して学修する。 <p>第08回 統計的な検定とは</p> <p>「2つの小学校における児童の身長や体重データなどを用いて、その差が有意のあるものなのかどうかを統計的に意味づける」などの事例を用いて仮説検定について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説検定(p値、Z検定、t検定、F検定など) <p>第09回 事例による統計的検定(アンケート分析)</p> <p>「評価に違いが出たアンケートについて、この結果が有意のある違いかどうかを調べる」などの事例を用いて独立性の検定について学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独立性の検定(χ^2検定) ・ 母比率、2標本2集団の検定など、幾つかの統計的な検定を、事例を通して学修する。 <p>第10回 相関と回帰分析</p> <p>「喫煙習慣と疾病など健康に関わる事例」「交通量と店の売上などのデータから出店計画を考える」などの事例を用いて相関や回帰分析について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相関、相関係数とは ・ 疑似相関 ・ 回帰分析(線形単回帰分析) ・ 「多様な広告媒体と売上の関係から効果的な広告は何かを推定する」などの事例を用いて重回帰分析を学ぶ <p>第11回 重回帰分析と数理的意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重回帰分析 ・ 標準化と寄与率 <p>第12回 ロジスティック回帰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エクセルソルバーによるロジスティック回帰について学ぶ。 <p>第13回 事例による推計統計学1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パラメトリック検定とノンパラメトリック検定 ・ 多重検定補正 <p>第14回 事例による推計統計学2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エクセルソルバーを用いた一元配置分散分析・二元配置分散分析 <p>第15回 学びへの振り返りとまとめ、学生受講結果アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の振り返りとまとめを行う。 | | |
| 使用教科書 | なし(授業内で参考となるデータファイルを配布する) | | |
| 自己学習(予習・復習等の内容・時間) | 時間外において、授業で実施した問題を自分の力でもう一度繰り返し挑戦するなどの復習が重要になる。授業内容が十分に理解できなかった場合や進度に遅れがちな場合は特にこのようなフォローを必ず行っておく。 | | |

| | | | |
|---------------------|--|-----------|--------------|
| 授業科目名 | データ数理演習 | | |
| 授業担当者名 | 堀尾 正典 | | |
| 単位数 | 2単位 | 開講期(年次学期) | 1~4年次前・後期 |
| 教員担当形態 | 単独 | ナンバリングコード | 201-21ND9-01 |
| 備考 | データ数理演習(1~2年次)、教養総合演習(3~4年次) | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>現在では、コンピュータだけでなく、家電、自動車、洋服や食品にいたる身の回りのありとあらゆるものがインターネットに接続され、多くのデータが一か所に集約できるようになってきた。いわゆるビッグデータである。加えてハードウェアの進歩も伴い、ビッグデータに対して、AI(人工知能)や数理解析など様々な分析手法も確立されてきている。データサイエンスはこのような分析を研究する分野である。そしてデータサイエンスの様々な手法を駆使して、ビッグデータから全体の特徴や傾向を分析する技術者がデータサイエンティストと呼ばれる人々で、今、社会から必要とされている重要な人材の一つである。</p> <p>この授業の目的は、数理・データサイエンスへの関心を高め、数理・データサイエンス・AIの基本的な考え方を理解し、データ活用や分析結果の判断を行うための基礎的な能力を修得することである。この授業により、アンケートデータや様々な問題に対して、統計的な意味づけ、数理的な判断や意思決定ができるようになる。</p> <p>なお、本科目は受講に際し次のような前提条件を設けている。 ・教養科目の「表計算演習」を履修済み、もしくはEXCELに対する同等以上のスキルを有する者 EXCELの操作に自信がない学生は、事前に上記科目を履修しておくこと。</p> | | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「思考・判断・想像力」◎ 「知識・技能」○ | | |
| 授業の概要 | 身の回りの生活、専門での学び、ビジネスシーンなど様々な状況を配慮した実践的演習テーマ・課題を通じて、数理データサイエンスの基本的な知識や技能を修得する。具体的には、 ・数理データサイエンスの基本(一般教養としての知識) ・統計学の基本(平均の推定、仮説検定)とテスト結果やアンケートなどの分析について ・数理解析の基本(回帰分析、シミュレーション、主成分分析、数理計画など)と商品売上予測や就職への意思決定の学修を行う。 | | |
| 学生に対する評価の方法 | 授業内での課題70%、最終課題30%を目安として採点する予定である。 | | |
| 授業計画(回数ごとの内容、授業技法等) | <p>第01回 オリエンテーション(書注意、講義内容、進め方の話し合い、成績評価方法など) 数理データ解析の導入について学び、以下について学修する。 ・社会の現状(Society5.0)とは ・データサイエンスとは ・様々なデータ分析技術(統計、多変量解析、機械学習、AI)の概要</p> <p>第02回 さまざまな代表値(基本統計量)について ここでは母集団を記述する様々な指標について学習する。 ・母集団を表す様々な指標(平均、中央、最頻、分散、四分位数、標準偏差、偏差値)</p> <p>第03回 集団のグラフ表現 度数分布などさまざまなグラフ表現について学ぶ。 ・母集団のグラフ表現(ヒストグラム、尖度、歪度、散布図、箱ひげ)</p> <p>第04回 グラフと情報リテラシー 大量のデータを効果的に示すグラフの取り扱い方法、および、それらを通じてより正しく情報を見抜くためのリテラシーについて学ぶ。 ・ヒストグラムの復習、ABC分析とパレート ・グラフでの情報伝達で気を付けること(見た目の注意、情報リテラシー、メディアリテラシー) ・確率分布とグラフシミュレーション</p> <p>第05回 中心極限定理と正規分布 推測統計学の基本となる中心極限定理と正規分布について学習する。 ・中心極限定理とは ・テストの得点から順位や目標得点などを推定する事例を使い正規分布表の使い方を学修する ・標準正規分布とは</p> <p>第06回 統計的な推定とは 区間推定の考え方を理解し、表計算ソフトを用いて使い方を学ぶ。 ・区間推定(信頼区間、信頼水準、Z推定、t推定) ・母平均の推定</p> <p>第07回 事例による統計的推定 ・母比率、母分散、標本数決定など、幾つかの統計的な推定を、事例を通して学修する。</p> <p>第08回 統計的な検定とは 「2つの小学校における児童の身長や体重データなどを用いて、その差が有意であるものなのかどうかを統計的に意味づける」などの事例を用いて仮説検定について学ぶ。 ・仮説検定(p値、Z検定、t検定、F検定など)</p> <p>第09回 事例による統計的検定(アンケート分析) 「評価に違いが出たアンケートについて、この結果が有意である違いかどうかを調べる」などの事例を用いて独立性の検定について学修する。 ・独立性の検定(χ^2検定) ・母比率、2標本2集団の検定など、幾つかの統計的な検定を、事例を通して学修する。</p> <p>第10回 相関と回帰分析 「喫煙習慣と疾病など健康に関わる事例」「交通量と店の売上などのデータから出店計画を考える」などの事例を用いて相関や回帰分析について学ぶ。 ・相関、相関係数とは ・疑似相関 ・回帰分析(線形単回帰分析) 「多様な広告媒体と売上の関係から効果的な広告は何かを推定する」などの事例を用いて重回帰分析を学ぶ</p> <p>第11回 重回帰分析と数理的意思決定 ・重回帰分析 ・標準化と寄与率</p> <p>第12回 定式化と最適化 制約条件の定式化とソルバーによる解法について学ぶ。 ・エクセルソルバーによる問題解決</p> <p>第13回 数理的意決定の実践1 「就職希望会社の選択基準決定などの事例」を使い、数理的な意思決定について学ぶ。 ・考慮すべき会社雇用条件の洗い出し ・複数の会社を調査し、希望会社とその各雇用条件を点数化</p> <p>第14回 数理的意決定の実践2 点数化した一覧表から、各雇用条件の重みを計算することにより、自分が実はどの雇用条件を重視しているのかを確認する。 ・エクセルソルバーを用いた解法で各雇用条件の重みを計算 ・重回帰分析で各雇用条件の重みを計算 ・二つの結果を比較して分析を行う</p> <p>第15回 学びへの振り返りとまとめ、学生受講結果アンケートの実施 課題作成、および授業の振り返りとまとめを行う。</p> | | |
| 使用教科書 | なし(授業内で参考となるデータファイルを配布する) | | |
| 自己学習(予習・復習等の内容・時間) | 時間外において、授業で実施した問題を自分の力でもう一度繰り返し挑戦するなどの復習が重要になる。授業内容が十分に理解できなかった場合や進度に遅れがちな場合は特に十分なフォロー学習(1時間以上)が必要になる。 | | |

2025年度 履修の手引

管理栄養学部



NUAS
名古屋学芸大学

教養科目 <'24・'25年度入学者用>

| 系列 | 授業科目の名称 | 授業方法 | 単位数 | | 週講時数と開講時期 | | | | | | | | 備考 | | |
|-------|------------|--------------|-----|----|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|--|--|
| | | | 必修 | 選択 | 1年 前期 | 1年 後期 | 2年 前期 | 2年 後期 | 3年 前期 | 3年 後期 | 4年 前期 | 4年 後期 | | | |
| 1 | 英語の世界 | 英語コミュニケーションA | 演習 | 1 | 1 | | | | | | | | | | ◎ 系列『英語の世界』から2単位以上 選択必修。 ◎ ただし、教職課程履修者について は、英語コミュニケーションA・Bを含 む2単位以上を修得する。 |
| | | 英語コミュニケーションB | 演習 | 1 | | 1 | | | | | | | | | |
| | | 総合英語A | 演習 | 2 | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 総合英語B | 演習 | 2 | | 1 | | | | | | | | | |
| | | 実践英語A | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 実践英語B | 演習 | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | |
| | | 実践英語C | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 実践英語D | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 2 | 人間の探究 | 哲学へのいざない | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 『人間の探究』、『歴史と文化』、 『社会のしくみ』、『自然科学へのい ざない』、『文学と芸術』、『ウエルネ ス』、『情報技術』、『世界の言語』、 『学際的探究』の9分野のうち6分野 を選択、各2単位、計12単位以上を 修得する。その他、任意の科目 （『一般開放科目群』含む）から選択 し、教養科目は、合計24単位以上 を修得する。 | |
| | | 倫理学へのいざない | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 世界の宗教 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 心の科学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 3 | 歴史と文化 | 日本の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 世界の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 民族と文化 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 世界の動き | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 4 | 社会のしくみ | 法と社会 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 政治と社会 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 産業と経済 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 日本の憲法 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 5 | 自然科学へのいざない | 数と形 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 確率と統計 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 自然のしくみ | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | |
| | | 人間と地球環境 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 科学の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 6 | 文学と芸術 | 日本の文学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 海外の文学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 美術の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 音楽の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 演劇の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 映画の世界 | 講義 | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 7 | ウエルネス | スポーツと健康(実習)A | 実習 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ※ | |
| | | スポーツと健康(実習)B | 実習 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ※ | |
| | | スポーツと健康科学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ※ | |
| | | 食と健康 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 【管理栄養学科生を除く】 | |
| 8 | 情報技術 | 情報リテラシー演習 | 演習 | 2 | 1 | | | | | | | | | ◎ | |
| | | 表計算演習 | 演習 | 2 | | 1 | | | | | | | | | |
| | | プレゼンテーション演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 情報応用演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 情報社会の基礎 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 9 | 世界の言語 | フランス語Ⅰ | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | フランス語Ⅱ | 演習 | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 中国語Ⅰ | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | 中国語Ⅱ | 演習 | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | ポルトガル語 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 10 | 学際的探究 | データ数理演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | ボランティア演習 | 演習 | 2 | | ←1→ | | ←1→ | | ←1→ | | ←1→ | | | |
| | | 職業と自己実現 | 演習 | 2 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | | コミュニケーション演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 11 | 一般開放科目群 | アートとしての数学 | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 映像メディア学科専門科目 デザイン学科専門科目 子どもケア学科専門科目 | |
| | | 映画史 | 講義 | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| | | 写真史 | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | |
| | | デザイン論 | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | |
| | | 子どもと社会 | 講義 | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |

◎教職必修科目 ※教職選択必修科目

2025 年度 履修の手引

メディア造形学部



NUAS

名古屋学芸大学

教養科目 <'24・'25年度入学者用>

| 系列 | 授業科目の名称 | 授業方法 | 単位数 | | 週講時数と開講時期 | | | | | | | | 備考 | |
|----|------------|--------------|-----|----|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | 1年 前期 | 1年 後期 | 2年 前期 | 2年 後期 | 3年 前期 | 3年 後期 | 4年 前期 | 4年 後期 | | |
| 1 | 英語の世界 | 英語コミュニケーションA | 演習 | 1 | 1 | | | | | | | | | 系列『英語の世界』から2単位以上選択必修。 |
| | | 英語コミュニケーションB | 演習 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| | | 総合英語A | 演習 | 2 | 1 | | | | | | | | | |
| | | 総合英語B | 演習 | 2 | 1 | | | | | | | | | |
| | | 実践英語A | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 実践英語B | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 実践英語C | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 実践英語D | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 2 | 人間の探究 | 哲学へのいざない | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 『人間の探究』、『歴史と文化』、『社会のしくみ』、『自然科学へのいざない』、『文学と芸術』、『ウェルネス』、『情報技術』、『世界の言語』、『学際的探究』の9分野のうち6分野を選択、各2単位、計12単位以上を修得する。その他、任意の科目(『一般開放科目群』含む)から選択し、教養科目は、合計24単位以上を修得する。 |
| | | 倫理学へのいざない | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 世界の宗教 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 心の科学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 3 | 歴史と文化 | 日本の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 世界の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 民族と文化 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 世界の動き | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 4 | 社会のしくみ | 法と社会 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 政治と社会 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 産業と経済 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 日本の憲法 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 5 | 自然科学へのいざない | 数と形 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 確率と統計 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 自然のしくみ | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 人間と地球環境 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 科学の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 6 | 文学と芸術 | 日本の文学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 海外の文学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 美術の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 音楽の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 演劇の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 映画の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 7 | ウェルネス | スポーツと健康(実習)A | 実習 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | スポーツと健康(実習)B | 実習 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | スポーツと健康科学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 食と健康 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 8 | 情報技術 | 情報リテラシー演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 表計算演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | プレゼンテーション演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 情報応用演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 情報社会の基礎 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 9 | 世界の言語 | フランス語Ⅰ | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | フランス語Ⅱ | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 中国語Ⅰ | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 中国語Ⅱ | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | ポルトガル語 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 10 | 学際的探究 | データ数理演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | ボランティア演習 | 演習 | 2 | ← | 1 | → | ← | 1 | → | ← | 1 | → | |
| | | 職業と自己実現 | 演習 | 2 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | コミュニケーション演習 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 11 | 一般開放科目群 | アートとしての数学 | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 映像メディア学科専門科目【映像メディア学科生を除く】 |
| | | 映画史 | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | |
| | | 写真史 | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | デザイン学科専門科目【デザイン学科生を除く】 |
| | | デザイン論 | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | |
| | | 子どもと社会 | 講義 | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 子どもケア学科専門科目 |

2025年度 履修の手引

ヒューマンケア学部



NUAS

名古屋学芸大学

14. 開講表

教養科目 <'25年度入学者用>

| 系列 | 授業科目の名称 | 授業方法 | 単位数 | | 週講時数と開講時期 | | | | | | | | 備考 | | |
|-------|--------------|------|-----|----|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|---|--------------------------|
| | | | 必修 | 選択 | 1年 前期 | 1年 後期 | 2年 前期 | 2年 後期 | 3年 前期 | 3年 後期 | 4年 前期 | 4年 後期 | | | |
| 1 | 英語コミュニケーションA | 演習 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | ◎ |
| | 英語コミュニケーションB | 演習 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | ◎ |
| | 総合英語A | 演習 | 2 | | | | 1 | | | | | | | | |
| | 総合英語B | 演習 | 2 | | | | | 1 | | | | | | | |
| | 実践英語A | 演習 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 実践英語B | 演習 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | |
| | 実践英語C | 演習 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 実践英語D | 演習 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 2 | 哲学へのいざない | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 倫理学へのいざない | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 世界の宗教 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 心の科学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 【児童発達教育専攻は除く】 |
| 3 | 日本の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 世界の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 民族と文化 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 世界の動き | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 4 | 法と社会 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 政治と社会 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 産業と経済 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 日本の憲法 | 講義 | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | | | ◎ |
| 5 | 数と形 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 確率と統計 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 自然のしくみ | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| | 人間と地球環境 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 科学の歴史 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 6 | 日本の文学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 海外の文学 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 美術の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 音楽の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 演劇の世界 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 映画の世界 | 講義 | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | |
| 7 | スポーツと健康(実習)A | 実習 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | △ |
| | スポーツと健康(実習)B | 実習 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | △ |
| | スポーツと健康科学 | 講義 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | △ |
| | 食と健康 | 講義 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 8 | 情報リテラシー演習 | 演習 | 2 | | 1 | | | | | | | | | | ◎ |
| | 表計算演習 | 演習 | | 2 | | 1 | | | | | | | | | |
| | プレゼンテーション演習 | 演習 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 情報応用演習 | 演習 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 情報社会の基礎 | 講義 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 9 | フランス語Ⅰ | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | フランス語Ⅱ | 演習 | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 中国語Ⅰ | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 中国語Ⅱ | 演習 | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | ポルトガル語 | 演習 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 10 | データ数理演習 | 演習 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | ボランティア演習 | 演習 | | 2 | | ←1→ | | ←1→ | | ←1→ | | ←1→ | | | |
| | 職業と自己実現 | 演習 | | 2 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | コミュニケーション演習 | 演習 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 11 | アートとしての数学 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | |
| | 映画史 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 映像メディア学科専門科目 |
| | 写真史 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | |
| | デザイン論 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | デザイン学科専門科目 |
| | 子どもと社会 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 子どもケア学科専門科目【子どもケア学科生を除く】 |

◎教職必修科目 △教職選択必修科目

2025年度 履修の手引

看護学部



NUAS

名古屋学芸大学

教養科目<'25年度入学生用>

| 系列 | 授業科目の名称 | 授業方法 | 単位数 | | 週講時数と開講時期 | | | | | | | | キャンパス | 備考 | |
|-----|--------------|------|-----|----|-----------|------|------|------|------|------|------|------|-------|--|----------------|
| | | | 必修 | 選択 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | 3年前期 | 3年後期 | 4年前期 | 4年後期 | | | |
| 1 | 基礎ゼミナール | 演習 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | 系列『学び方入門』から2単位 |
| | アカデミックライティング | 講義 | 1 | | 0.5 | | | | | | | | | | |
| 2 | 英語コミュニケーションA | 演習 | 1 | | 1 | | | | | | | | | 英語コミュニケーションの2単位必修 臨床看護英語A・Bから1科目1単位以上および英語論文講読A・Bから1科目1単位以上修得する。 | |
| | 英語コミュニケーションB | 演習 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | |
| | 臨床看護英語A | 演習 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | |
| | 臨床看護英語B | 演習 | | 1 | | | | | 1 | | | | | | |
| | 英語論文講読A | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| | 英語論文講読B | 演習 | | 1 | | | | | | | 1 | | | | |
| 3* | 哲学へのいざない | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 日進 | 教養科目は、『人間の探究』、『歴史と文化』、『社会のしくみ』、『文学と芸術』、『学際的探究』の16科目から6単位以上、『自然科学へのいざない』の3科目より2単位以上、『ウェルネス』の4科目より1単位以上、『情報技術』の4科目より1単位以上、『世界の言語』の中国語・フランス語・ポルトガル語・日本語表現から1言語選択2単位以上あるいは2言語で「1」の科目を選択し2単位以上とし、『学び方入門』の必修2単位、『英語の世界』の必修2単位と選択2単位以上を合わせて18単位以上を修得する。 | |
| | 心の科学 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| | 人間と教育 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 日進 | | |
| | 民族と文化 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 日進 | | |
| 4* | 日本の歴史 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| | 医療の歴史 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | | |
| | 海外の文学 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| 5* | 法と社会 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| | 日本の憲法 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 日進 | | |
| | 社会と福祉 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| 6 | 世界の動き | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 日進 | | |
| | 生命の科学 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| | 性差の科学 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | | |
| 7* | 人間と地球環境 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| | 音楽の世界 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 日進 | | |
| | 映画の世界 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| 8 | 演劇の世界 | 講義 | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 日進 | | |
| | スポーツと健康1 | 演習 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | |
| | スポーツと健康2 | 演習 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 9 | スポーツと健康科学 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| | 食と健康 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| | 情報リテラシー演習 | 演習 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | |
| | 表計算演習 | 演習 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | |
| 10* | プレゼンテーション演習 | 演習 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | |
| | 情報社会の基礎 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 11* | ボランティア演習 | 講義 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| | データ数理演習 | 演習 | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 日進 | | |
| 11 | 中国語 I | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| | 中国語 II | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| | フランス語 I | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| | フランス語 II | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| | ポルトガル語 I | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| | ポルトガル語 II | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| | 日本語表現 I | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| | 日本語表現 II | 演習 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |

名古屋学芸大学教養教育機構規程

(趣旨)

第1条 本規程は、名古屋学芸大学学則第63条の2第2項の規定に基づき、名古屋学芸大学教養教育機構（以下「機構」という。）の組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 機構は、名古屋学芸大学（以下「本学」という。）の教養教育の実施機関として、全教員が本学の建学の精神、基本理念、使命・目的及び教養教育の教育目標に則り、教養教育を円滑に実施することを目的とする。

(業務)

第3条 機構は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関すること
- 二 教養教育科目を担当する教員（非常勤講師の任用計画を含む。）に関すること
- 三 教養教育の実施のための経費に関すること
- 四 教養教育の時間割の編成に関すること
- 五 教養教育の評価に関すること
- 六 教養教育の調査研究に関すること
- 七 その他教養教育の実施に関すること

2 削除

(教職員)

第4条 機構に、次の教職員を置く。

- 一 機構長
- 二 機構長補佐 数名
- 三 その他必要な教職員

(機構長)

第5条 機構長は、本学の専任の教授のうちから選考する。

- 2 機構長は、機構の業務を掌理する。
- 3 機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(機構長の選考)

第6条 機構長の選考は、「名古屋学芸大学部館科長等選考規程」に基づき行う。

(機構長補佐)

第7条 機構長補佐は、機構長が本学の専任の教職員のうちから選任する。

- 2 機構長補佐は、機構長を補佐し、機構の業務を行う。
- 3 機構長補佐の任期は2年とし、再任を妨げない。なお、年度途中で機構長補佐に選任された場合の任期は、機構長の任期の末日とする。

(運営委員会)

第8条 機構に運営委員会を置く。

(審議事項)

第9条 運営委員会は、第3条の業務に関わる重要事項を審議する。

(組織)

第10条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 教務部長
- 三 機構長補佐
- 四 各学科から選出された教員 各2名
- 五 事務局長
- 六 その他学長が必要と認めた者

2 前項第四号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。なお、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議及び議事)

第11条 運営委員会は、機構長が招集し、その議長となる。ただし、機構長に事故あるときは、機構長があらかじめ指名した機構長補佐がその職務を代行する。

2 会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数によって決する。

(委員以外の者の出席)

第12条 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(部会)

第13条 運営委員会の下に部会を置くことができる。

2 部会の構成及び運営は、機構長が運営委員会に諮って決定する。

(短期大学部教員の出席)

第14条 削除

2

(事務)

第15条 機構の事務は、教務部教務課においてこれを担当する。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、機構の組織及び運営等に関し必要な事項は、運営委員会及び評議会の議を経て学長が定める。

附 則

1 この規程は、2012年4月1日から施行する。

2 この規程の第10条第1項第四号により各学科から選出される教員の取り扱いについては、当分の間、従前の名古屋学芸大学教養教育委員会規程第3条第一号の教員及びその教員以外の各学科所属の教員のうちから各1名を選出するものとする。

3 この規程の施行により、従前の「名古屋学芸大学教養教育委員会規程」は廃止する。

附 則

1 この規程は、2013年4月1日から施行する。

- 2 第10条第2項の規定に関わらず、現在選出されている第10号第1項第四号の委員の任期は、2014年3月31日までとする。

附 則

- 1 この規程は、2017年4月1日から施行する。

名古屋学芸大学教養教育機構規程

(趣旨)

第1条 本規程は、名古屋学芸大学学則第63条の2第2項の規定に基づき、名古屋学芸大学教養教育機構（以下「機構」という。）の組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 機構は、名古屋学芸大学（以下「本学」という。）の教養教育の実施機関として、全教員が本学の建学の精神、基本理念、使命・目的及び教養教育の教育目標に則り、教養教育を円滑に実施することを目的とする。

(業務)

第3条 機構は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関すること
- 二 教養教育科目を担当する教員（非常勤講師の任用計画を含む。）に関すること
- 三 教養教育の実施のための経費に関すること
- 四 教養教育の時間割の編成に関すること
- 五 教養教育の評価に関すること
- 六 教養教育の調査研究に関すること
- 七 その他教養教育の実施に関すること

2 削除

(教職員)

第4条 機構に、次の教職員を置く。

- 一 機構長
- 二 機構長補佐 数名
- 三 その他必要な教職員

(機構長)

第5条 機構長は、本学の専任の教授のうちから選考する。

- 2 機構長は、機構の業務を掌理する。
- 3 機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(機構長の選考)

第6条 機構長の選考は、「名古屋学芸大学部館科長等選考規程」に基づき行う。

(機構長補佐)

第7条 機構長補佐は、機構長が本学の専任の教職員のうちから選任する。

- 2 機構長補佐は、機構長を補佐し、機構の業務を行う。
- 3 機構長補佐の任期は2年とし、再任を妨げない。なお、年度途中で機構長補佐に選任された場合の任期は、機構長の任期の末日とする。

(運営委員会)

第8条 機構に運営委員会を置く。

(審議事項)

第9条 運営委員会は、第3条の業務に関わる重要事項を審議する。

(組織)

第10条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 教務部長
- 三 機構長補佐
- 四 各学科から選出された教員 各2名
- 五 事務局長
- 六 その他学長が必要と認めた者

2 前項第四号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。なお、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議及び議事)

第11条 運営委員会は、機構長が招集し、その議長となる。ただし、機構長に事故あるときは、機構長があらかじめ指名した機構長補佐がその職務を代行する。

2 会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数によって決する。

(委員以外の者の出席)

第12条 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(部会)

第13条 運営委員会の下に部会を置くことができる。

2 部会の構成及び運営は、機構長が運営委員会に諮って決定する。

(短期大学部教員の出席)

第14条 削除

2

(事務)

第15条 機構の事務は、教務部教務課においてこれを担当する。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、機構の組織及び運営等に関し必要な事項は、運営委員会及び評議会の議を経て学長が定める。

附 則

1 この規程は、2012年4月1日から施行する。

2 この規程の第10条第1項第四号により各学科から選出される教員の取り扱いについては、当分の間、従前の名古屋学芸大学教養教育委員会規程第3条第一号の教員及びその教員以外の各学科所属の教員のうちから各1名を選出するものとする。

3 この規程の施行により、従前の「名古屋学芸大学教養教育委員会規程」は廃止する。

附 則

1 この規程は、2013年4月1日から施行する。

- 2 第10条第2項の規定に関わらず、現在選出されている第10号第1項第四号の委員の任期は、2014年3月31日までとする。

附 則

- 1 この規程は、2017年4月1日から施行する。

| | | | |
|----------|-----------------|-------|----------|
| 大学等名 | 名古屋学芸大学 | 申請レベル | リテラシーレベル |
| 教育プログラム名 | データ数理・AI教育プログラム | 申請年度 | 令和7年度 |

取組概要

プログラムの目的

今後の情報社会における変化、課題、問題点を整理し、それを支える技術や数理的な基礎を理解する。これにより日々進化するIT社会の変化に対応できる基本知識を修得する。その上で、高度化・複雑化する情報社会において、どのように社会と関わり課題に向き合うべきかを考察し、自ら新しい知見や考え方を形成できるようにする。

開講されている科目の構成

情報社会の基礎（2単位）
データ数理演習（2単位）

修了要件

上記2科目（計4単位）を取得すること

身に付けられる能力

- ・ データサイエンスやAIの基本的な考え方が理解できる
- ・ 各種アンケートデータに統計的な意味づけを与えることができる
- ・ 数理的な判断を取り入れた意思決定の重要性が理解でき、実生活に応用できる。

実施体制

